

群 教 セ	G11 - 03
	平 29. 265 集
	学級活動

「自ら学ぶ生徒」を育成する学級活動の工夫 —学習スタイルを基にした班編制による話し合い活動を通して—

特別研修員 佐藤 友貴

I 研究テーマ設定の理由

中学校学習指導要領解説特別活動編では、「生徒が、自己の将来に夢や希望を抱き、意欲的かつ主体的に学習に取り組むとともに、将来の生き方や進路に関する体験を得たり、情報の活用を図ったりしながら、自己の個性や学習の成果を生かす進路を自らの意志と責任で考え、選択していくことは中学生にとって極めて重要なことである。」とある。

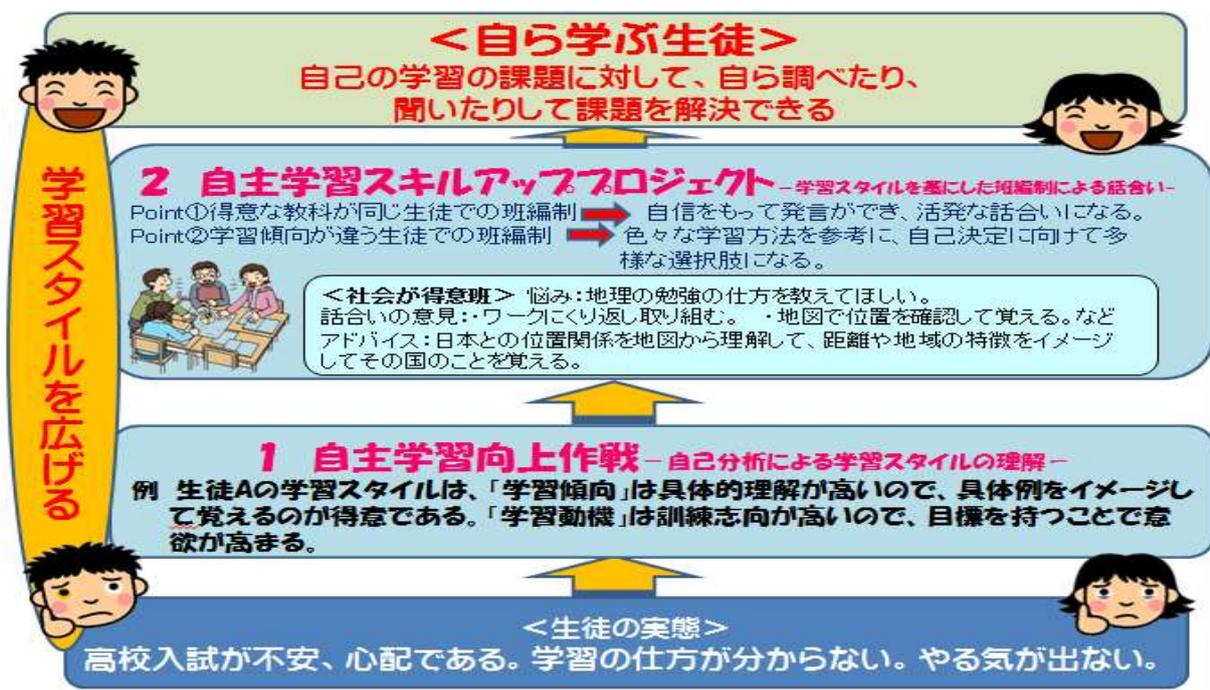
本学級では、ほとんどの生徒が自主学習の提出日を守るなど学習に真面目に取り組むことができる。しかし、自主学習を個別に見ると、自分に必要な学習ができておらず、簡単な漢字や英単語を書くなどノートのページを埋めることが目的になっている生徒が約4割見られる。

学習についてのアンケートをとった結果、全員が入試に向けて不安や心配があると回答した。その理由として9割の生徒が自分の学力、約8割の生徒は学習方法への悩みであった。また、学習意欲の高め方が分からない生徒も7割ほどいた。生徒は学習の必要性を感じてはいるが、具体的な取り組み方などが分からないため、その場しのぎの学習になってしまっているのではないかと考えた。

これらのことから、「自ら学ぶ生徒」つまり、自己の学習の課題に対して、自主的に調べたり、友達に聞いたりして解決できる生徒を育てる必要があると考え、二つの手立てを設定した。第一に、「学習傾向」「学習観」「学習動機」が分かる学習スキルチェックを通して自己の学習スタイルを理解すること。第二に、学習スタイルを基にした班編制を行い、自主学習の方法を話し合うことにより、様々な意見を参考に学習意欲を高めたり、学習方法を試したりすることである。この二つの取組により「自ら学ぶ生徒」を育成できると考えて本テーマを設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

自己の学習の課題に対して、自主的に調べたり、友達に聞いたりして解決できる生徒を育むために、次のような二つの手だてを実施する

手立て1 自主学习向上作戦 —自己分析による学習スタイルの理解—

手立て2 学習スキルアッププロジェクト —学習スタイルを基にしたに班編制による話合い—

「手立て1」では、「学習スキルチェックシート」に取り組み、自分の「学習傾向」「学習観」「学習意欲」を客観的に知ることで、自分に合った学習スタイルを把握することを目的とする。なお、「学習傾向」とは、「意識化・具体的理解・論理的理解・自己モニタリング・感情コントロール」の五つの観点から見た日頃の学習への取組の傾向である。「学習観」とは、「理解して覚える・考える過程が大切・やり方を工夫する・失敗から学ぶ」の四つの考え方のどこを重要視しているかという学習への価値観である。また、「学習意欲」とは、「充実志向・訓練志向・実用志向・関係志向・自尊志向・報酬志向」の六つの学習へのやる気を高める思考のことである。

「手立て2」では、学習への互いの悩みを解決する話合いをする際に学習スタイルの傾向によって班編制をしていく。班編制の基準として、学習の悩みを大まかに分類し、学習傾向の違う生徒や学習動機が同じ生徒で班編制をしていく。このことで、同じような悩みを持った生徒が集まるため、活発な話合いが期待できるようになる。その話合いの中で効果的な解決策や他の生徒の様々な学習への取り組み方を知り、自分に合った新たな学習方法を見いだすことにつながる。また、話し合った意見や他の班が考えた取組を参考にして、悩みを解決する手がかりとしたり、今後の自己の学習に生かしていく学習方法を考えたりできるようにしていく。

このように、話合いの中で、たくさんの意見に触れ、具体的な勉強への取り組み方を知ること、課題に対して多様なアプローチができるようになり、今後現れる課題にも対応していけるようになると考える。

III 研究のまとめ

1 成果

- 生徒は「学習スキルチェックシート」に取り組み、自己の「学習傾向」「学習観」「学習意欲」を客観的に理解したことで、自分に合った学習スタイルを知ることができた。
- 学習スタイルによる班編制をしたことで、意見が活発に出され、解決策を具体的に考えさせることができた。その結果、学級の約9割の生徒が新たな学習スタイルを見だし、学力の向上に繋げることができた。
- 難問や分からない問題に対して、すぐにあきらめたりせずに、友達と相談したり、教科書やノートを見返したりするなどして、何とか課題を解決しようとする様子が見られるようになった。

2 課題

- 学習への関心、意欲が低い生徒に対して、それぞれに合った個別での対応を行い、新たな学習スタイルを見いださせていく必要がある。

実践例

1 題材名 「自分の学習の悩みを解決しよう」 (第3学年・2学期)

2 本題材について

生徒は本時まで、学習意欲の高め方と学習傾向から自分なりの学習方法を考えて取り組んでいる。生徒の考えた学習方法を個別に見ると、重要語句を意味と一緒に覚える、問題集の正解の数が少ないページはチェックをしておいて後でやり直すなど、実践的で理にかなったものがほとんどであった。しかし、現状の取り組み方では苦手教科を克服しきれない生徒もいる。

本時では、苦手教科の悩みの解決策を話し合う「自主学習向上会議」を実施した。この会議では、ある教科を苦手とする生徒のために、その教科を得意とする生徒で班を編制し、解決策を考える相互補完の形で行った。学習スキルチェックによる学習傾向の中の高い観点を再確認することで、自分の学習スタイルの確認をする。アンケートで出た学習の悩みの中から話し合う議題を選ぶ。生徒を得意な教科ごとに分類し、さらに学習傾向の違いを加えて班編制を行う。活発な話し合いとなるように得意な教科の学習法を議題とする。また、学習傾向が違う生徒で班編制をしたことで、いろいろな視点からの幅広い意見を知ることができるのではないかと考えた。

この話し合いを通して出された意見を自分の学習に取り入れることで、苦手教科の学習方法を知り、自分に合った新たな学習方法を見いだすことにつながる。また、学習に関して新たな課題に直面したときの解決方法を見いだすことに繋がると考え、本題材を設定した。

目標	自分の得意教科の学習方法を活かして、友達の苦手教科の悩みを考えることにより、自分の学習の悩みを解決する方法を見いだす。	
評価 規 準	集団活動や生活への関心・意欲・態度	人間としての生き方や学ぶこと、働くことなどに興味をもち、自己のよさを伸ばしながら、自主的、自律的に日常生活や学習に取り組もうとしている。
	集団の一員としての思考・判断・実践	自己の将来に希望を抱き、その実現に向け、現在の生活や学習を振り返りこれからの自己の生き方などについて考え、判断し、実践している。
	集団活動や生活に関する知識・理解	学ぶことと働くことの意義や、自己の能力や適性、進路選択に必要な情報収集や将来設計の仕方などについて理解している。
過程	時間	主な学習活動
事前	問題の発見 議題の選定 問題の意識化	<ul style="list-style-type: none"> 事前アンケートで、得意教科の学習方法と不得意教科の悩みの把握をする。学習スタイルにおける「学習傾向」の確認をする。その結果から、得意教科が同じで学習傾向は違う生徒で班編制をする。 話し合いで解決する悩みを選定する。
本時	出し合う 比べ合う まとめる	<ul style="list-style-type: none"> 得意教科の自分の学習方法を記入する。 自分の学習方法を発表し合い、悩みを解決する具体的な方法を考える。班で決まった学習方法を発表する。 班での話し合いや他の班の発表を参考に、自分の苦手教科の学習方法を考える。
事後	実践	<ul style="list-style-type: none"> 授業で発表された取り組み方を参考にそれぞれの教科の自主学習に取り組む。 班でまとめた学習方法を教室に掲示して、今後も参考にできるようにする。

3 本時及び具体化した手立てについて

本学級の生徒が学習に関する課題に直面したときに自らの力で解決方法を見いだせるようになるためには、様々な学習方法を身に付けておくことが大切である。そこで、以下のように二つの手立てを具体化した。

手立て1 自主学習向上作戦

授業の事前準備として、アンケート用紙に現在の自分の得意教科の学習方法を具体的に記入する。また、苦手教科の悩みや知りたい単元の学習方法を記入する。学習スキルチェックシートから、自分の学習スタイルの学習傾向の中で高いものを確認しておく。

手立て2 自主学習スキルアッププロジェクト

得意な教科が同じで、学習スタイルの学習傾向が違う生徒で班編制をすることで、意見の交流が活発になり、具体的に悩みを解決する方法を見いださせる。また、学習傾向が違うことで様々な学習の仕方を知ることに繋がる。さらに他の班の発表を参考にすることで、苦手な教科の自分の学習方法をより良くしようとすることに繋がると考えられる。

4 授業の実際

(1) 事前の活動

事前アンケートで、学習面での悩みと得意教科の学習方法を具体的に記入する。学習スタイルの確認とアンケートへ記入することで、自分の学習への取り組み方や考え方を自己分析しておく。アンケート結果をもとに、得意教科が同じ生徒を3人から4人の班編制をする。複数編制できる場合は学習スタイルの学習傾向が違う生徒同士編制する。アンケートの悩みの中から解決する悩みをどの班が解決するかを決めておく。

(2) 本時の活動

アンケート結果をもとに学習方法に関する互いの悩みを共有した後、班ごとに課題を解決するための話し合いを行った。話の中でそれぞれの生徒の日頃の勉強の仕方が発表され、「それ私もしている。」「へー、なるほど。」といった発言が各班から聞こえてきていた。また、それぞれの学習方法を熱心にメモに取る生徒もたくさん見られた(図1)。班で考えた学習方法を発表する場面では、解決策をカードに記入をして、この後の自分の学習方法を考えるときに参考になるように黒板に貼った。発表の内容は具体的な取り組み方を発表できる生徒が多く、多くの生徒が自分の学習方法の改善繋がる新たな発見ができた。



図1 話し合いの様子

話し合い活動と各班の発表を受けて、自分の苦手教科に対する学習方法を考えた。発表された学習方法と同じ方法だけでなく、話し合われなかった課題についても自分なりに学習方法を考えられた生徒がほとんどであった(図2)。また、自分のワークシートに書かれたメモなどを参考に考えている生徒もたくさん見られた。自分の意見を整理するのが苦手な生徒も黒板やメモ書きを参考にして自分なりの学習方法を考える様子も見られた。

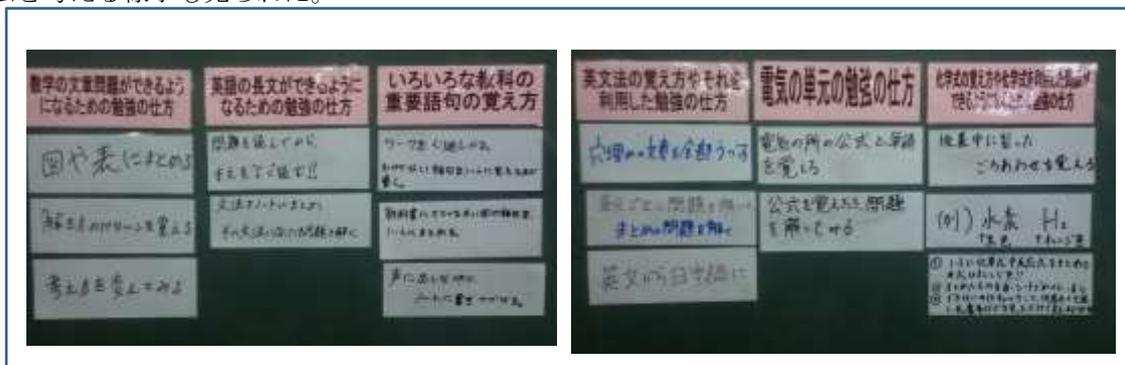


図2 班別のまとめ

(3) 事後の活動

授業後の自主学習の取組で、英語の文章を書いているだけだった生徒が、文法の意味を書いたり、熟語を四角で囲ったりする工夫が見られるようになった。また、年表のように歴史をまとめて覚えようとしていたり、付箋紙を利用して重要語句を意識したりと、以前には見られなかった自主学習の取り組み方をする生徒もでてきた(図3)。

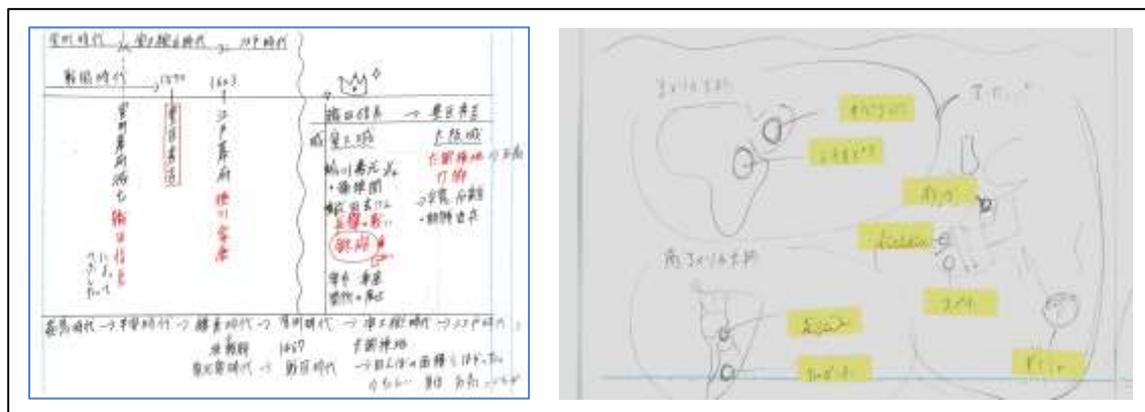


図3 自主学習の工夫

5 考察

学習方法は、誰もが直面をしている課題であるため真剣に話し合い、相談する生徒の姿が見られた。授業の感想の中で、「相談できてよかった。」「勉強の仕方が分からなかったので話せてよかった。」といった意見も多く、学級活動で意図的に学習方法について話し合わせたことは有効であったと考える。

「手立て1」では、アンケートに記入することで、現状の自分の得意、不得意科目がはっきりし、自分の課題を把握することができた。また、学習スキルチェックで再度学習傾向を確認することで自分に合った学習方法を把握できた。

「手立て2」では、班分けの方法として得意な教科を自分で選んでいるので、生徒が前向きに悩みに対する回答を考えることができていた。学習スタイルの学習傾向の違いにより、上記に挙げたような感想が振り返りに書かれていた。事前に自分の学習状況を確認してから話し合いであったので、悩みに対して親身になって考える姿もよく見られ、自己分析の形で事前アンケートを取った成果が様々な場面で見られた。また、得意教科を活かして悩みを解決したので、普段はうまく発表できない生徒もある程度自信を持って発表できる姿が見られた。日頃の自分の学習方法を活かし、具体的な取り組み方を発表できる班が多かった。しかし、班によっては、成績のよい生徒の意見や学習方法に流されてしまう班もあり、自主的な言動までには至らなかった様子も見られた。班編制をさらに工夫することにより、全員の意見が活かせる話し合いになるようにしていく必要がある。

授業実践後、個々の自主学習の様子に変化が現れてきた。教科書などの転記だけの学習だった生徒が、年表を利用して自分なりに歴史をまとめたり、英単語や英文に赤いマーカーを入れて、書いた文章を活用したりと工夫した学習が見られるようになった。この様子から、本実践は、「自ら学ぶ生徒」に繋がったと考えられる。

<参考文献>

- 1 山崎茂雄著 「学習スキルアップワークシート」 学事出版(2014)